

2021 年度特定研究奨励金 報告書

報告者所属・氏名

所属	文学部美学美術史学科	氏名	宮崎 法子
----	------------	----	-------

奨励金による研究活動・実績（具体的に記載）

海外調査が行えない状況のなかで、21年度の前半は、明末清初の美術市場や画家に関する中国の最新の学術書を多く購入し読み内容を検討した。5月には石川県立博物館における日本近代の花鳥画家の展覧会の講演を依頼され明清花鳥画の系譜についてまとめたが、コロナのため講演は実現しなかった。また、10月に、秋田市千秋美術館の「絵になる自然展」に際して山水画と花鳥画の系譜に関する講演を依頼され、図録にも「自然を絵にする伝統」を執筆し、中国における自然描写と日本の江戸時代と近代の画家への影響についてまとめた。その展覧会での展示作品から着想し、清初の文人系画家惲寿平の日本の南画家への影響について考察をまとめ学科紀要に「落花游魚図巻—劉寀から惲寿平、そして椿椿山へ」として発表した。また、群馬県立近代美術館の「上毛の画家たち展」の調査を行い、江戸時代から近代の多くの日本の南画家による中国文人画の真摯な学習の実態を具体的に把握した。その一方、『アジア仏教美術論集元明清巻』の編集作業と中国の研究者に依頼した論文の翻訳を行ったが、本奨励金によって翻訳作業の環境が整備できた。特に明代文人画家と寺僧との交流、清初の画僧石溪関する詳細な長編論文の翻訳を通じて、また編集作業を通じて各論文で扱われた明末の画家とパトロン、版画出版、さらに明代の思想、日本に伝わる明末の民間肖像画や彫刻などに関する新発見や中国の明清文人画研究の最新の動向を把握することが可能となった。さらに10月には上海博物館の国際シンポジウムに招待され、明末の絵画市場の拡大のなかで描かれた贋作を重要な資料として、上海博物館の西湖図の制作背景を解明する論考を発表した。

その後、国内調査が可能になった時期に、奈良博の藤田伝三郎のコレクション展の見学調査や、金沢市の湯涌美術館や県立美術館で、日本画家の中国画学習や元明時代の中国文化の日本における受容に関する資料を調査した。さらに九州国立博物館において所蔵品の中国画と日本での模本の熟覧調査を、実作者を招聘し共同で行うことで、日本への中国画の様式的伝播だけでなく技法の伝播についての知見を得ることが出来た。